

# なぜ、住友林業は、 350mの超高層木造ビルなんて、 つくるんだらう？



# W350

その答えは、少し先の未来に広がる風景に、きっと見えてくる。

住友林業は創業350年を迎える2041年、都市のまんなか、地上350m・70階建ての超高層木造ビルディングをつくる計画を立てています。

それは、地球環境を保全して持続可能な未来へ向かうために、木をより良く活用しなければという使命のもとに始める、大きな物語。

そして、木の価値を高める技術において世界一の森林会社でありたいという情熱をかたちにすることです。

たとえば新素材の開発や他素材とのハイブリッドなど、著しく進化を遂げる木材の技術開発においても、世界に誇れる存在へ。

新しい木々が、日本の街を、森を、人々の生活を変えていく。人と木、様々な生物が共生できる「環境木化都市」をめざすW350計画。

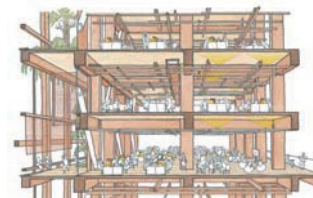
これからの「木」に、大いなる挑戦に、どうぞご期待ください。

## 環境木化都市に向かって—— 住友林業の挑戦。

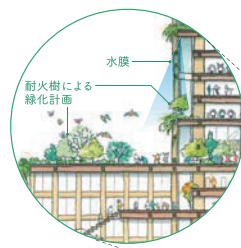
住友林業は筑波研究所を中心に、人と木が地球環境のなかでより良く共生できる「環境木化都市」への取り組みを、技術開発の面でも一步一步進めています。それは、生物多様性に配慮し、再生可能な素材である木をふんだんに用いた、持続可能な街づくりの構想。W350計画のために生まれる技術や考え方は、さまざまな建築物などにも応用され、街や暮らし、地球の未来を変えていくことになるでしょう。木の可能性が、ますます広がります。

## 人と木、自然が共生できるデザイン

ビルの周りを開かれた回廊のように取り囲んで上へと延びる木製バルコニー（ティンバー・インターフェイス）や水場など、自然と触れ合える建築デザイン。緑にあふれ、季節の移ろいも感じられて、様々な生物の共生の場となります。



屋外とつながる木質空間が居心地の良い室内環境を生み出します。



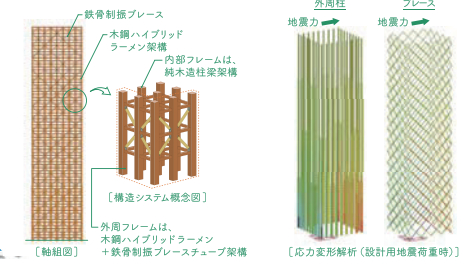
植物への水やりから、万一の火災時に活用できる水膜は、耐火樹とともに防災に役立ちます。

## 循環型の未来を育むビジョン

一棟で使用される木材は、当社木造住宅約8000棟分。木はCO<sub>2</sub>を吸収・固定するので地球温暖化の抑制につながるのももちろん、木材の活用は林業を活性化し、ふたたび健やかな森林や木を育てる。サステナブルな循環がここから生まれます。さらに、ビルに使う木材は一定のサイクルで新しいものに替え、時を経た木材は木質建材など、新たな役割を得て生まれ変わります。

## 350mの超高層を支える木鋼ハイブリッド

木材に加え、鋼材を適材適所に用いた木と鉄(=9:1)の新しいハイブリッド技術で、地震に耐える構造をつくります。また、木材をベースにした新素材や、耐火性の高い新しい樹種など、あらゆる方面から「木」を研究・開発します。



【軸組図】 外周フレームは、木鋼ハイブリッドラーメン+鉄骨制振ブレースチューブ架構  
【応力変形解析(設計用地震荷重時)】

設計協力：日建設計

街を、森に。W350計画、はじまる。

木と生きる幸福

**住友林業**

